

## 学校法人立正大学学園 令和4年度決算報告

本学園の令和4年度決算は、理事会ならびに評議員会において承認可決されました。ここにその概要を説明します。

### 1. 事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度の事業活動収入及び事業活動支出の内容および収支の均衡状態を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すものです。

事業活動収入計は 16,848,331 千円で、前年度と比べると 91,012 千円増（対前年度 100.5%）となりました。事業活動支出計は 16,522,585 千円で、前年度と比べると 512,184 千円増（対前年度 103.2%）となりました。これは主に修繕費が増加したことによるものです。基本金組入額は 261,666 千円で、前年度と比べると 30,102 千円減（対前年度 89.7%）となりました。当年度収支差額は 64,080 千円であり、これに前年度繰越収支差額△8,839,776 千円を加算すると翌年度繰越収支差額は△8,775,695 千円となりました。

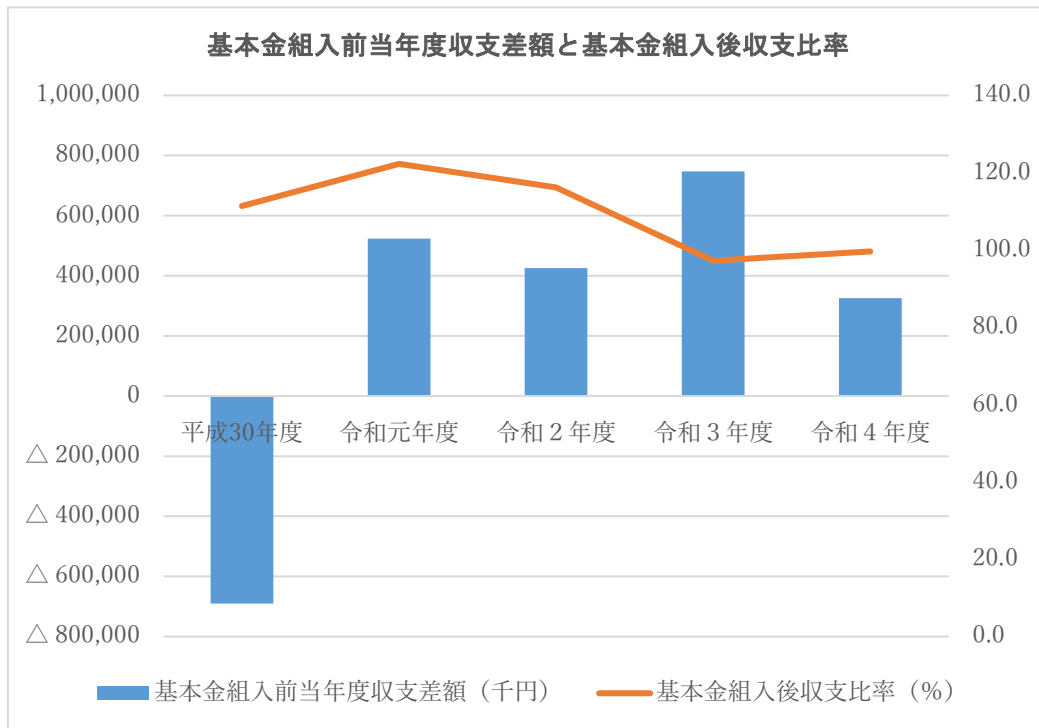
### 2. 資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入および支出の内容ならびに支払資金の収入および支出のてん末を明らかにするものです。資金の収入額は 30,925,140 千円でこれに前年度から繰越された支払資金 11,298,120 千円（令和4年4月1日現在の支払資金残高）を加えた 42,223,260 千円が当年度の収入総額です。ここから人件費支出以下の当年度中に支出された額 31,114,645 千円を差し引いた残り 11,108,616 千円が翌年度へ繰越される支払資金となりました。

### 3. 貸借対照表について

貸借対照表は、年度末日における資産、負債、純資産の残高を示し、学校法人の財政状態を明らかにするものです。本学園が所有しております資産の総額は、前年度と比べると 303,218 千円増加して 101,679,880 千円（対前年度 100.3%）となり、これに対し負債の総額は、前年度と比べると 22,528 千円減少して 7,067,814 千円（対前年度 99.7%）となりました。純資産構成比率（負債及び純資産の合計額のうち純資産の占める割合）は 93.0%となっています。基本金は 103,387,761 千円、繰越収支差額は△8,775,695 千円となり、総資産から総負債を引いた純資産は 94,612,066 千円（対前年度 325,747 千円増）となりました。

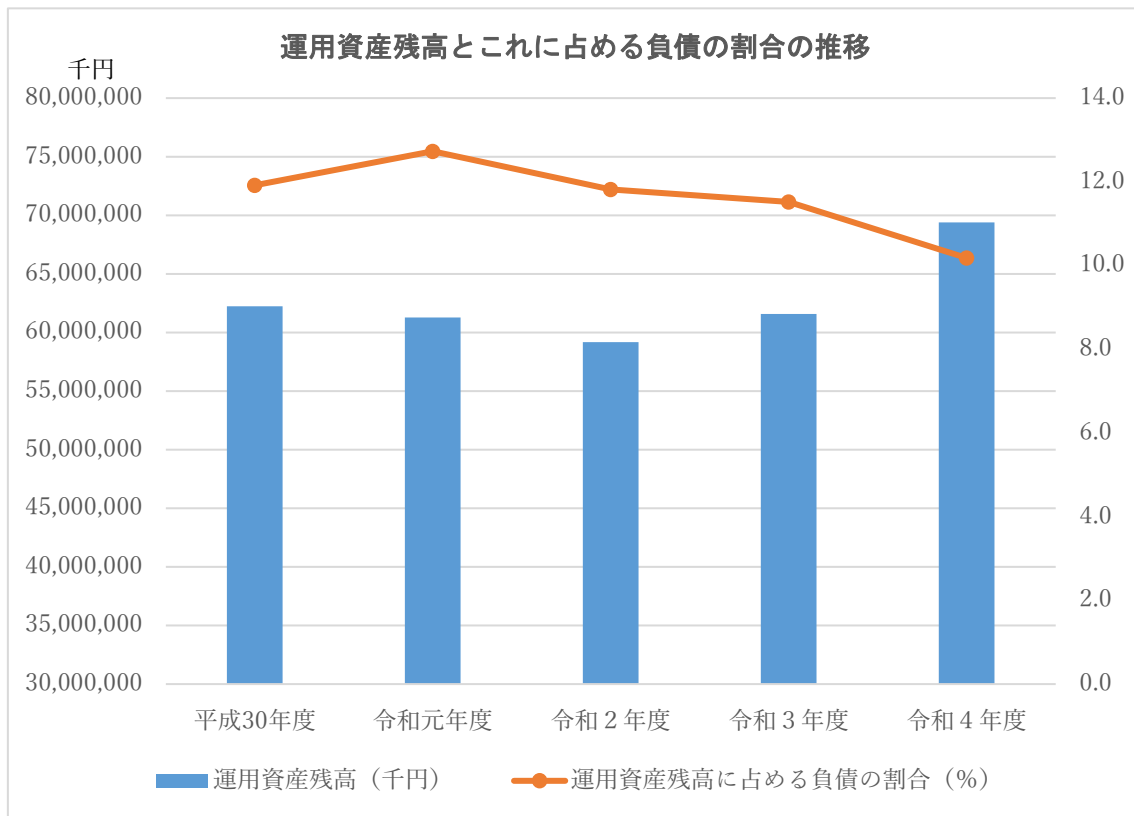
#### 4. 経年比較



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
基本金組入前当年度収支差額 (千円)	△ 690,799	523,598	426,035	746,918	325,747
基本金組入後収支比率 (%)	111.4	122.3	116.2	97.2	99.6

基本金組入前当年度収支差額は、学校法人の当該年度における実質的な経営成績を表しています。値がプラスであれば事業活動収入で事業活動支出を賄うことができ、プラスの値が大きいほど基本金を組み入れる余力があるとされています。本学園は、事務システムの更新や各種改修工事のあった平成30年度を除いてプラスで推移しています。

基本金組入後収支比率は、事業活動収入から基本金組入額を控除した額に対する事業活動支出が占める割合を示す比率です。一般的には収支が均衡する100%前後が望ましいとされています。過去5年間をみると、平成30年度から令和2年度にかけては品川キャンパス施設整備事業が行われた結果、概ね110%前後で推移しています。



	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
運用資産残高 (千円)	62,249,367	61,286,146	59,180,737	61,572,901	69,404,569
運用資産残高に占める負債の割合 (%)	11.9	12.7	11.8	11.5	10.2

※ 運用資産＝特定資産＋有価証券（固定資産・流動資産）＋現金預金

運用資産の残高は、概ね 600 億円前後で推移しています。運用資産残高に占める負債の割合は、その値が 100%以内であればすべての負債を運用資産で完済できることを表しています。本学園は概ね 11%台で推移しています。

以 上